

合併都市における公共交通に対する住民意識調査

- 栃木県佐野市を対象として -

足利工業大学大学院 学生会員 ○阿部 和貴
 足利工業大学 正会員 為国 孝敏
 非会員 大澤 育夫
 株式会社シー・アイ・エス 正会員 益子 輝男

1. はじめに

近年、コミュニティバスやデマンドバスといった新たな公共交通システムが各地で取り組まれているが、その全てが成功している訳ではない。本研究では合併都市においてバス交通を含めた公共交通を再検討するために住民に公共交通に対する意識調査を実施し、その結果をもとに地域にあったバス交通のあり方を提案することを目的としている。

2. 対象地の概要

佐野市は平成 17 年 2 月 28 日に佐野市、田沼町、葛生町が合併した都市で人口 12 万 7 千人、栃木県では 4 番目に大きい市である。栃木県の南西部に位置し、面積は 356.07 km²、地形は、北部から北東部、北西部にかけては山岳・森林地帯、南部と西部は平坦な市街地、農地となっている。市内における主要な交通網は、国道 50 号、国道 293 号、東武佐野線、JR 両毛線、東北自動車道（佐野藤岡インターチェンジ）などである。

市営路線バスにおける平成 17 年度の年間利用者数は約 5 万 6 千人となっている。路線別では飛駒線の利用者が約 1 万 5 千人で最も多い。しかし路線全体での利用者が減少傾向にあり、昭和 63 年度の 15 万 6 千人のピーク時と比べると約 64% 減少している（図 - 1）。また、市営バスは山間地域の路線が多く、路線長も長くなっている。これらは重複している路線区間もあるなど、非効率なサービスと需要の減少が悪循環となっている。一方、JR 佐野駅から佐野イオンショッピングセンター、佐野プレミアムアウトレットを結ぶ市内循環バス（民間）における平成 17 年度の年間利用者数は約 15 万 9 千人となっている（図 - 2）。循環バスでは年々利用者が増加している。

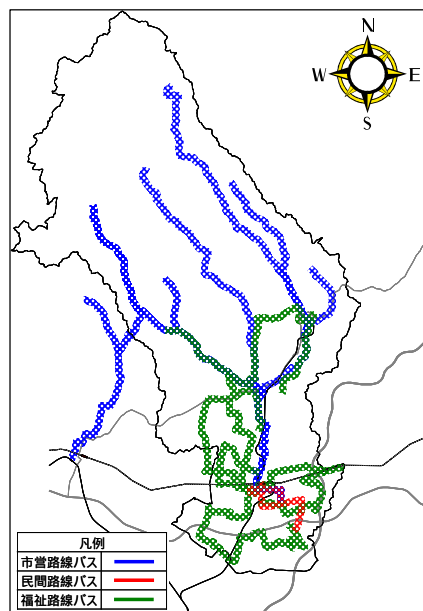


図-1 佐野市のバス路線図

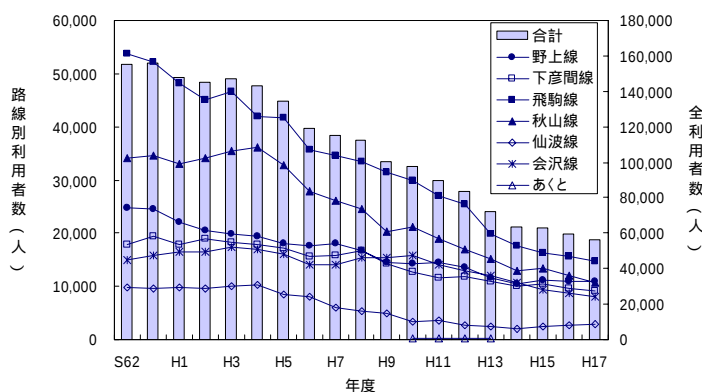


図-2 市営バス利用者数

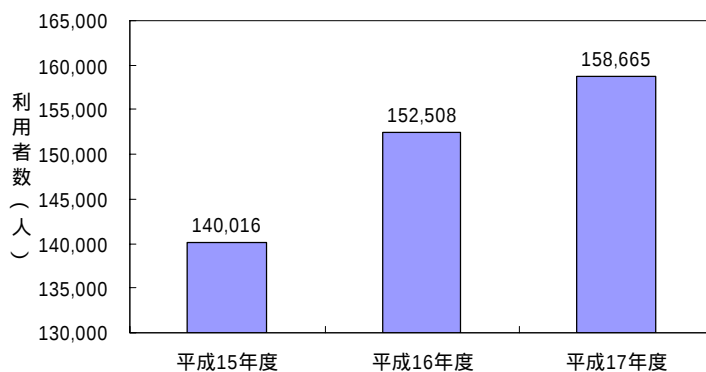


図-3 市内循環バス利用者数

キーワード 合併都市, 公共交通, アンケート調査

連絡先 〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利工業大学 TEL0284-62-0609 内線 385
 〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町 465-22 株式会社シー・アイ・エス TEL028-636-5100

3. アンケート調査

1) 調査概要

佐野市在住の 18 歳以上の男女 2,000 人を対象としてアンケート調査を行なった。住民基本台帳より合併前の地域配分に考慮してランダム抽出した。表 - 1 に調査の概要を示す。

2) 分析・集計

市営バスをよく利用する人では現在の運行頻度に対しては満足している結果が得られた。利用しない人に関しては市営バスの運行頻度について「わからない」と回答する結果となった(図 - 3)。利用しない人の中には市営バスの運行サービスがわからないから利用しない人もいることが推測される。市営バスの認知度を高める必要があると考えられる。

市営バスの経費負担に対する考え方については「市がある程度の負担をするのは仕方がない」と回答した割合が 55%と最も多くなった(図 - 4)。今現在の佐野市では運行経費の約 78%を市が負担している。アンケート結果を分析すると「市がある程度の負担をするのは仕方がない」と回答したうち、179 人が回答した結果では費用負担率が平均約 48%となった(表 - 2)。約 30%の経費負担の削減を行なうに運営・運行内容の見直しと利用者を増加させる取り組みが必要である。

4. まとめ

本研究ではバス交通を含めた公共交通を再検討するために合併した佐野市における公共交通の実態と公共交通利用者の現況をアンケート調査によって分析した。今後、佐野市全域を公共交通のサービスエリアとするのなら路線バスだけではなくデマンド型の公共交通システムを組み込むことが必要である。

今後の課題としてアンケート結果から市民の意向を配慮した公共交通サービスの提案を行う必要がある。

なお、本研究は佐野市市民生活部生活課との共同研究によるものであることを付記する。

参考文献

1) 寺嶋潔：これからの地域交通 - 調査・計画の手法と解決手法 -, (財)運輸政策研究機構, 2005.3
2) 寺田一薫：地方分権とバス交通 - 規制緩和後のバス市場 -, 勁草書房, 2005.9
3) 中村文彦：バスでまちづくり 都市交通の再生をめざして, 学芸出版社, 2006.10
4) 芝海潤, 益子輝男, 細野孝司：住民参加型のコミュニティバス運行計画策定に関する調査 - 埼玉県戸田市における事例 -, 第 28 回土木計画学研究・講演集 CD-ROM 版, 2000.12

表-1 アンケート概要

項 目	詳 細
調査手法	郵送配布、郵送回収
調査期間	配布:平成 18 年 11 月 10 日(金) 回収:平成 18 年 11 月 30 日(木)消印有効
配布用紙	案内状:A4 判片面 1 枚 アンケート用紙:A3 判両面 2 枚
配布範囲	佐野市全域
抽出内訳	旧佐野市 1,391 枚 旧田沼町 447 枚 旧葛生町 162 枚 合 計 2,000 枚

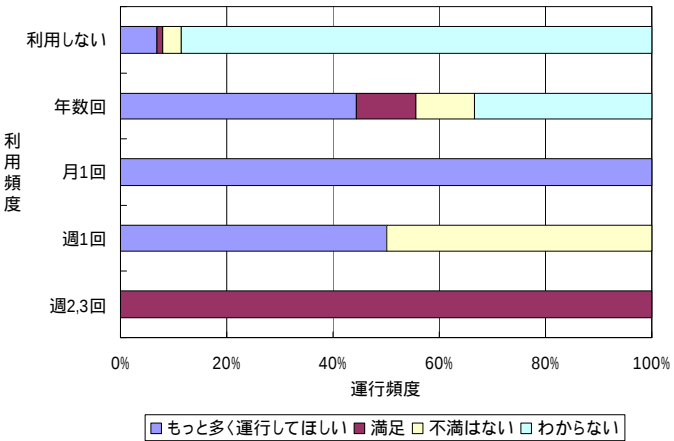


図-4 バスの利用頻度と運行頻度

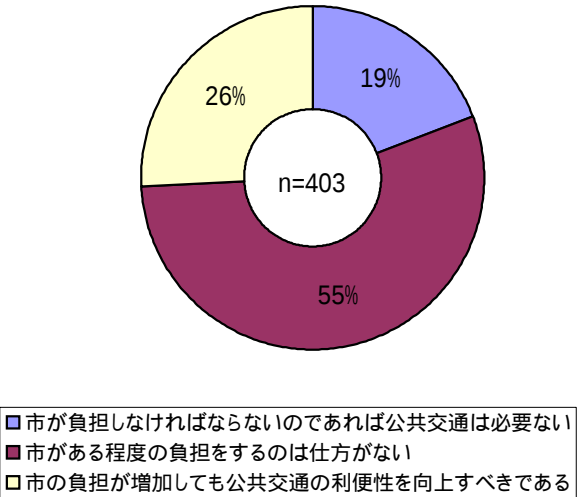


図-5 佐野市の経費負担

表-2 公共交通の経費負担率

経費負担率	
データ数	179
平均値 (%)	47.8
標準偏差	17.2